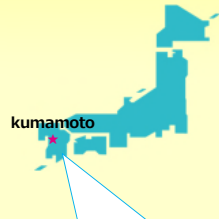


4 官民一体となった飲食店応援プロジェクト コロナ禍で苦しむ飲食店を未来の飲食代金の先払いで応援

熊本県 | 肥後銀行

新型コロナウイルス感染症の拡大は、飲食店経営に大きな打撃を与えている。先行きに不安を抱える飲食店を資金面とマインド面の両面から支援する官民合同プロジェクト「#SAVE THE EATS KUMAMOTO」をスタート。未来の飲食代金を先払いして、馴染のお店を応援する。



熊本県の概要

- 【人口】1,734,629人（2020年12月1日時点）
- 世界有数のカルデラを誇る阿蘇があることから「火の国」と呼ばれている。
 - また、阿蘇山の噴火によって形成された地層の賜物である清らかな湧水が県内に1,000か所以上ある。それが豊かな農産物の生産を可能とし、スイカ、メロン、ナスなどは全国有数の産地となっている。馬肉の生産も有名で、産出額は国内第1位。
 - 観光面では、日本三名城の一つとされる「熊本城」や日本で最も古い蒸気機関車（SL列車）が有名。



阿蘇山 (Microsoft Bing)

#SAVE THE EATS KUMAMOTO

熊本県は、馬肉、辛子れんこんなど多くの名物料理があり、県内飲食店は地元民や観光客で大いに賑わっていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大がその賑わいを一変させ、飲食店経営に大きな打撃を与えている。

肥後銀行は、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた2020年3月、約2万先の取引先経営者にヒアリングを実施したところ、特に飲食店経営者から「コロナ禍で来店客が激減、予定していた新規出店を

ためらっている」、「売上が立たない中、人件費や店の家賃がかかり赤字が続いている。いつまで持ち堪えられるだろうか」、「コロナ禍が終息しても、お客様が戻ってくるかどうか不安」といった先行きを不安視する声が多く聞かれた。

そこで同行は、資金面とマインド面の両面から速やかに飲食店を応援できないか、熊本県・熊本市・県内商団体・熊本日日新聞社に呼びかけ対応策を模

討。その結果、2020年5月より、同行が運営する熊本震災復興支援サイト「かせるもん。」に掲載した複数の飲食代金先払いサービスを利用者と飲食店がワンストップで利用できる「#SAVE THE EATS KUMAMOTO」プロジェクトを開始した。なお、「かせるもん」とは、「加勢する」が訛った、「手伝う」を意味する熊本方言である。

同行は、県内の飲食店に参加の呼び掛けやサービスの登録サポート、熊本県・熊本市・熊本日日新聞社との共同新聞広告、SNSを活用した情報発信を実施した。



プロジェクト概要図 (肥後銀行提供資料)

3つの飲食代金先払いサービスで応援

取り扱った飲食代金先払いサービスは、「さしより応援プロジェクト」、「さきめし」、「みらいの食券」の3つ。

このうち、「さしより応援プロジェクト」は、肥後銀行を傘下に持つ九州フィナンシャルグループが立ち上げたクラウドファンディング会社が運営。仕組みは、利用者がスマートフォンアプリで電子チケットを購入、飲食店での利用時に使いたい電子チケットと枚数を選択、その画面を飲食店に提示、飲食店が提示するQRコードを読み取るとチケットが使用済みとなるもの。電子チケットは、家族や友人に贈ることも可能となっている。本プロジェクトによる支援先の飲食店数は614先、支援金額は3,731万円となった。



さしより応援プロジェクト (肥後銀行提供資料)

飲食店経営者の感謝の声を受けて

肥後銀行が重視したのは、飲食店経営者の心が折れないよう、とにかく、県民みんなの応援の気持ちを素早く届けること。「企画開始から1か月後のスタートを目指し、官民がスピード感をもって対応しました。地元九州の飲食代金先払いサービス業者の協力も大きかったです。資金面にとどまらず、県民の“また行くけんね”の熱い応援に、飲食店経営者は勇気づけられたと思います。」(肥後銀行)

今回のプロジェクトに参加した飲食店経営者からは、「コロナ禍の中でお店を新規オープンし、不安な気持ちで一杯でしたが、たくさんの方に購入してもらい、添えられた応援メッセージにもとても勇気づけられました」、「こんなに多くの資金が集まるとは思っていなかったので驚いています。応援してくださった皆様へ返しができるよう、今後も従業員みんなで力を合わせて頑張ります」等の感謝の声が寄せられている。

「さきめし」は、福岡市のIT事業者が運営する飲食代金先払いサービス。コロナ禍で外食を自粛している人々が、アプリで行きつけの飲食店のメニューを選んで自分あてに先払い(自分に「ごちそう」)を行い、コロナ禍収束後に食事することを約束することで、応援する気持ちを伝えようというもの。支援先の飲食店数は104先、支援金額は133万円となった。

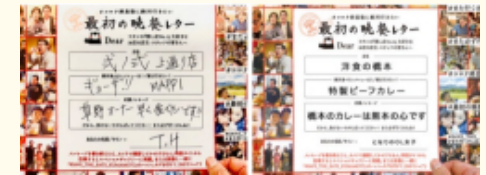
「みらいの食券」は、地元熊本市のIT事業者が運営する先払い食券(回数券)発行サービス。こちらも同様に、人々が自分の行きつけの店を先払いで応援するもの。支援先の飲食店数は33先、支援金額は70万円となった。



さきめし (肥後銀行提供資料)

みらいの食券 (肥後銀行提供資料)

同行は「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、飲食業界をはじめ様々な業界へ影響が及んでいます。地方銀行として、地域の課題をしっかり把握し、今後も、今回の取組み以外の支援も考えていきたいです」と語る。食は地域住民の娯楽であり、観光の目玉。肥後銀行はコロナ禍が去り、人々が熊本名物を安心して味わえる日が来るまで、支援を続ける覚悟だ。



応援メッセージ (肥後銀行提供資料)

Data V-RESASで見る新型コロナウイルス感染症拡大の飲食店への影響

政府の地域経済分析システム (RESAS) は、2020年6月から新型コロナウイルス感染症の影響を可視化するV-RESASを公開しています。

右図は飲食店サイトの閲覧数を2019年同週比で表していますが、緊急事態宣言が発令された2020年4~5月、新規陽性者数(棒グラフ)が大幅に増加した2021年1~2月と4~5月に大幅に落ち込んでいることが分かります。



飲食店情報の閲覧数 (V-RESAS)